

令和4年度 学校推薦型選抜 I

小論文解答例

設問 1

二人とも美味しいチーズがいつもそこにあり、これから先もたくさん食べることができると思い込んでいた。そして、それを突然失ったことや失う理由に心当たりがなく、信じられない気持ちになったため。

(93文字)

(設問のねらい：文脈をとらえることができているかを確認する問題)

設問 2

茫然と立ち尽くし、何日も憤慨していた点はへムもホーも同じであった。しかし、その後、ホーは、物事が変化し、決して元に戻らないので、変化を受け入れて前進した方がよいと考え、新しいチーズを探しに行き、そのチーズをへムにも分け与えた。一方、へムは新しいチーズを探しに行かず、ホーからもらった新しいチーズはいつも食べていたチーズではなかったので好きになれなかった。

ホーは、チーズの喪失を受け入れていることから、変化に対して柔軟に適応していると考ええる。一方、へムは、物事の変化に対して適応の途上にあると考える。物事への適応には、個人差があるため、早ければよいとは言えない。へムが新しいチーズを簡単に好きになれないのは、へムにとって今まであったチーズは好みのもので、愛着があったからだと考える。ホーのように変化を受け入れ、物事を前向きに考えることが出来る人もいれば、適応に時間を要する人もいるだろう。このように、喪失や変化への適応の過程は個人差が大きいのではないだろうか。

また、ホーはへムの行動にがっかりし、へムの目の前から消えた。へムはチーズのみならず、友人を失ったことになり、悲しんでいるに違いない。時間を要しても現実を理解し、新しいチーズを見つけ、それに適応しホーと再会した時に、適応した自分をホーに見せることにより仲直り出来ればよいと思う。

(567字)

(設問のねらい：小人のホーとへムの考え方の共通点や相違点等を理解し、変化への適応について自分の考えを論理的に展開できるかを確認する。)